



JSBMR Newsletter No. 17

日本骨代謝学会／The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

第 29 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2011年7月28日(木)～7月30日(土)

会 場: 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

会 長: 大阪大学大学院医学系研究科 小児科学
大 藪 恵一

参加費: 12,000円(大学院生 5,000円・・・学生証の提示が必要です)

ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/29jsbmr>

～～～～～ 2011年度の各賞が決定しました ～～～～～

5月に行われた選考委員会・理事会において、2011年度の各賞が下記のように決定いたしました。

- 【学会賞】 該当者なし
- 【尾形賞】 松本 俊夫 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学)
- 【学術賞】
 - <基礎系> 保田 尚孝 (オリエンタル酵母工業株式会社バイオ事業本部企画開発グループ)
 - <内科系> 梶 博史 (近畿大学医学部再生機能医学講座)
 - <外科系> 斎藤 充 (東京慈恵会医科大学医学部整形外科学講座)
- 【研究奨励賞】
 - <基礎系> 西田 崇 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔生化学分野)
 - <臨床系> 山本 昌弘 (島根大学医学部内科学講座内科学第一)
- 【優秀演題賞】
 - <基礎系> 根岸 貴子 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)
 - 牧野 祐司 (東京医科歯科大学大学院グローバル COE 口腔病理学分野)
 - <臨床系> 宮本 裕也 (慶應義塾大学医学部整形外科)
 - 増田 裕也 (東京大学医学部整形外科)
 - 三浦 弘司 (大阪大学医学部小児科)
 - 日浅 雅博 (徳島大学生体情報内科学分野)
- 【JBMM 論文賞】 白木 正孝 (成人病診療研究所白木医院)

※7月29日(金)13時10分より、総会に引き続いて表彰式および受賞講演が執り行われる予定です。

～～～～～ JBMM 誌インパクト・ファクター発表 ～～～～～

2011年6月に発表された日本骨代謝学会英文誌「Journal of Bone and Mineral Metabolism」のインパクト・ファクターが、**2.238**となりました！

2010年度 日本骨代謝学会 会務報告 (2010年11月～2011年3月末)

■2010年度 第3回理事会議事録■

日 時: 2010年12月3日(金) 14時00分～16時00分
会 場: 千里ライフサイエンスセンター 7階 701会議室
議 事:

2010年度第2回理事会議事録(案)の承認(米田理事長)

2010年7月20日に開催された2010年度第2回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、伊東理事、小守理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告(米田理事長)

米田理事長より、2010年11月30日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。

2. 会計中間報告(杉本理事)

杉本理事より、2010年10月31日時点での会計中間報告があり、承認した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、優秀演題賞の採点において、従来の抄録を採点する方法に加えて、口頭発表審査を導入してはどうかとの提案があり、協議事項にて審議することとした。続いて、産学連携の企画をしてはどうかとの提案があり、了承した。具体的な企画内容は、あり方委員会で検討することとした。

なお、あり方委員会と会員数増加検討委員会の委員を重任している委員が複数名いることから、必要に応じて合同委員会を開催してはどうかとの提案があり、了承した。

また、松本副理事長より、学術集会演題の日英併記について提案があり、検討することとした。

2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

・IBMS より、BoneKEy の Perspective/Commentary の和訳版を、本会のホームページに掲載してほしいとの依頼があったが、掲載にかかる費用\$50,000 の半額を負担する義務が発生することや、会員の需要が殆ど無いことを考慮し、見送ることとした。

・2011年 IBMS-ECTS meeting において、第2回の Asian セッションを開催することについて検討したが、予算や準備の都合から今回は中止することとし、IBMS 2013 で開催すること

したい。

・2nd Asia-Pacific Osteoporosis and Bone Meeting being held in conjunction with the ANZBMS において、Travel Award を設置する予定である。

3) JBMM 編集委員会(清野委員長)

清野委員長より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があり、了承した。

・2010年度10月31日時点の国別投稿状況について、日本から25%、海外からは75%であった。

・Review 論文を多くの方に依頼したい。

・11月25日時点におけるフルテキストダウンロード回数について、28巻4号に掲載されたビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の Perspective が945回の第1位を記録した。

・全論文のダウンロード回数は、毎月平均5,000件である。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

・成人における血清25(OH)D基準値設定の検討について、岡崎委員による論文が JBMM に掲載され、現在、保険適用を目指して、申請中である。

・小児における血清25(OH)D基準値設定の検討について、協和メディックスにて治験中であり、結果が出れば、ビタミンD欠乏症で申請する予定である。

・骨軟化症の診断マニュアルについて、福本委員よりアンケート調査を進めており、回答結果の集計が完了次第、骨軟化症全体の診断マニュアルを作成し、第29回学術集会で発表する予定である。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会: 報告事項なし

6) 骨密度基準値設定委員会(松本副理事長)

松本副理事長より、新たな骨密度基準値について、資料に基づき、主に以下の報告があり、了承した。

・腰椎と大腿骨のいずれも、1996年(日本骨代謝学会)の結果と大きな相違は見られない。

・DCS-600による女性の橈骨骨密度の値が、1996年と比べて若年層で増加している。多数例での比較であり、サンプリングの影響の他にコホート効果の可能性が考えられる。

・男性の大腿骨近位部のデータは2000年のデータ作成時は症例数が115(QDRのみ)と少なく、今回の結果がより信頼性が高いと考えられる。

・大腿骨近位部は20-40歳の年齢層でも加齢による減少が大きいため、骨粗鬆症診断時に用いる大腿骨 YAM の年齢層について再検討の必要ある。1996年版では20-44歳の平均値、2000年版では19-39歳の平均値が提示され、ISCDでは20-29歳の平均値の利用が推奨されている。

なお、本委員会が策定した基準値の検討結果について、JBMMへ掲載する旨を確認した。

7) 広報委員会(伊東理事)

伊東理事より、同委員会の活動について、会員専用ページの導入、ならびにホームページ改訂箇所について資料に基づき、報告があった。また、以下の提案事項について審議し、了承した。

- ・会員専用ページにおける学術集会の特別講演、教育講演のスライド掲載は、発表者の知的財産を考慮すると、許諾を得ることは難しい。
- ・あり方委員会および理事からもオブザーバーとして広報委員会に参加可能とする。
- ・会員専用ページに会員の所属機関のE-mailアドレスを掲載可能とする。但し、掲載を希望しない会員については、掲載しないこととする。
- ・学会のキャッチコピーについて、広報委員会で案を検討する。

なお、JBMMのページについて、現在シュプリンガー社のサイトへ直接リンクを張っているが、別途、和文の紹介ページを作成することとした。

また、BMDの基準値やFGF23の診断基準値等を、ホームページに掲載してはどうかとの提案があり、了承した。

8) BP製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田理事長より、BRONJの和文完全版「ビスフォスフォネートの有用性と顎骨壊死」について、9月末に大阪大学出版会より単行本として発行し、約5,000部の注文が届いた旨、報告があった。

また、ビスフォスフォネート使用に関する厚生労働省からの改訂文書に対して、日本骨粗鬆症学会と本会との合同でさらなる改訂を要望する文書を作成し、9月8日に、中村利孝日本骨粗鬆症学会理事長と連名で提出した結果、厚生労働省医薬食品安全対策課長より、9月29日付にて回答書が届いた旨の報告があった。回答書の内容は、本会から要望書を踏まえて、ビスフォスフォネート系薬剤が医療現場で混乱なく使用できるよう、平成22年9月発行の「医薬品・医療機器安全性情報No.272」において、具体的な対応に係る考え方を紹介し、医薬関係者に周知を行ったとの旨、説明があった。

9) 椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、10月22日に委員会を開催した旨、報告があった。

- ・脊椎骨折判定基準改訂の検討について、定量的診断法とSQ法の一致率をふまえて新しい基準を策定する。
- ・一致率の検証については、A-TOP研究会からデータが届き次第行う。
- ・パブリックコメントの収集については、日本骨代謝学会、日本整形外科学会、日本脊椎脊髓病学会、日本骨形態計測学会、日本骨粗鬆症学会、日本放射線医学会の各学術集会において、椎体骨折の評価に関するシンポジウムを企画し、各学会の意見を徴収する予定である。

なお、本評価基準に関する出版について、審議した結果、まずライフサイエンス出版物の前にJBMMにおいて発表することとする旨、森委員長へ確認する旨、了承した。

10) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、現行のガイドラインの改定について、ACRより新改訂基準が発表され、また、PTHの承認が下りたことから、これらの結果を踏まえて、12月18日に委員会を開催する予定である旨、報告があった。

11) 会員数増加検討委員会(田中理事)

田中委員長より、10月22日に第1回委員会を開催した旨、報告があり、以下の提案事項について、了承した。

- ・筋肉、再生、腱、宇宙といった領域の異なる先生方と合同でシンポジウムを開催してはどうかとの提案があり、第29回学術集会において実施することとなった。
- ・JBMMの和文紹介文をホームページに掲載する。
- ・学術集会のプログラムが決まり次第、可能な限り早い段階で掲載する。
- ・若手を中心とした賞の受賞者を増やし、学会参加へのインセンティブを与える。
- ・臨床の先生にも気軽に参加できるセッションやシンポジウムを開催する。企業関係者の参加を促すため、薬剤や治験を扱ったシンポジウムやセッションを行う。
- ・臨床研究をバックアップできる公募プロジェクトを作る。
- ・若手向けの短期セミナーや若手育成のためのプログラムを導入する。
- ・学術集会ポスターの発送先について、関連機関の病院、大学を拡大し、広く周知する。

4. 第 29 回日本骨代謝学会準備状況について(大藪第 29 回会長)

大藪会長より、第 29 回学術集会について、2011 年 7 月 28 日(木)～30 日(土)に大阪国際会議場で開催する旨、報告があった。詳細はプログラム委員会で協議することとした。

5. 第 30 回日本骨代謝学会準備状況について(加藤第 30 回会長)

加藤会長より、第 30 回学術集会について、2012 年 7 月 19 日(木)～21 日(土)に京王プラザホテルで開催する旨、報告があった。

6. IBMS2013 の開催について(野田会長)

野田会長より、IBMS2013 開催について、10 月 17 日の ASBMR 会期中に IBMS 役員と、野田会長、松本副理事長、および加藤理事とで打ち合わせを行った旨、報告があり、主に以下の報告があった。

- ・IBMS との Agreement については JSBMR の事務局連絡先の変更のみで了承した。
- ・コンベンション会社は JCS に委託する。
- ・IBMS の SPC と本会の SPC のメンバーを決める。
- ・来年年明け早々に電話会議を行う。

野田会長より、本会からの実行委員(SPC 含む)として以下の委員に依頼した旨、提案があり、了承した。

井樋 栄二(東北大学大学院医学系研究科医科学専攻外科学病態学講座整形外科学分野)

大藪 恵一(大阪大学大学院医学系研究科小児科学)

加藤 茂明(東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)

宗圓 聡(近畿大学医学部奈良病院整形外科リュウマチ科)

竹内 靖博(虎の門病院内分泌代謝科)

田中 栄(東京大学医学部附属病院整形外科)

田中 良哉(産業医科大学医学部第1内科学講座)

野田 政樹(東京医科歯科大学難治疾患研究所分子薬理学)

萩野 浩(鳥取大学医学部保健学科)

福本 誠二(東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科)

松本 俊夫(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学)

山口 朗(東京医科歯科大学大学院口腔病理学分野)

吉川 秀樹(大阪大学医学部整形外科)

米田 俊之(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座生化学教室)

プログラムについて本会からの意見を反映させるため、IBMS のプログラム委員会へ、加藤理事を推薦することとした。

また、今後のスケジュールについて、資料に基づき報告があり、寄付・協賛金の獲得が直近の課題である旨、確認した。

7. 学会誌掲載論文の転載依頼について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、「原発性骨粗鬆症の診断基準」の転載依頼 9 件、ステロイドガイドライン和文簡略版の転載依頼 4 件、ならびにビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対するポジションペーパーの転載依頼 2 件について報告があり、承認した。

8. その他

- ・IOF より Asia Pacific Advisory Council Elections の投票依頼があり、米田理事長より回答した旨、報告があった。
- ・IOF より、Committee of National Societies chair and Patient Societies Subcommittee chair Election の投票依頼があり、米田理事長より回答した旨、報告があった。

<審議事項>

1. 日本骨代謝学会尾形賞創設について(米田理事長)

中外製薬社が主催する、故尾形悦郎先生を記念した尾形賞の設置について、同社より賞の選考基準については本会に一任したいとの提案があった旨、報告があった。米田理事長より、本賞の受賞資格や選考基準についてまとめた原案について説明があり、一部修正の上、承認した。

2. 優秀演題賞の選定方法について

優秀演題賞の選考において、口頭発表審査の導入について審議した結果、2012 年より実施する旨、了承した。なお、口頭発表の導入に際しては、より公平性を確保するため、領域の考慮ならびに審査員数などを考慮し、具体的な要項を作成することとした。

3. 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供について

米田理事長より、日本学術会議より、連携会員の候補者について情報提供の依頼状が届いた旨、報告があった。審議の結果、推薦の依頼ではないこと、各大学においても、同様の依頼が届いていることから、本会としての回答は行わないこととした。

4. その他

- ・米田理事長より、第 85 回日本整形外科学会から、教育研修

講演、シンポジウム、およびパネルディスカッションのタイトルや演者について提案依頼があった旨、報告があった。審議した結果、萩野理事に一任することとした。

■各種委員会■

<第31回 JBMM 編集委員会議事録>

日時: 2011年5月26日(木)14:30~15:15

場所: 千里ライフサイエンスセンター 6階 601会議室

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

1. 投稿状況

- ・国別投稿状況としては、2010年度、国内22%、海外78%となっており、2011年5月15日現在では、国内19%、海外81%である。
- ・2011年1月1日~5月15日の新規投稿は111件となり、論文種類の内訳は、Invited Review2編、Review Article 5編、Original Article 78編、Case Report 18編、Short Communication 7編、perspective 1編
- ・海外からの投稿数では、中国、ギリシャ、韓国、トルコが比較的多い。なお、清野編集委員長より、各 Associate editor ごとの査読判定状況および査読担当状況について資料に基づき説明があり、Accept と Reject の数について偏りが無いようにしたいとの説明があった。また、Invited Review については、ダウンロード数や引用回数の増加に直結するため、ぜひ関係の先生方へ投稿を呼び掛けするよう依頼があった。

2. 発行状況

清野編集委員長より、28巻3号~29巻2号の発行状況、掲載論文数、ならびに掲載論文の国内外の内訳について報告があった。

3. オンラインジャーナルダウンロードおよび引用について

清野編集委員長より、オンラインジャーナルダウンロード回数および引用回数について、シュプリンガー社からの資料に基づき、報告があった。なお、IF値の関連数値について、2008年は2.0を記録したが、当時より掲載数が増加しつつも、引用回数も多くなっているため、傾向としては順調に伸びてきている旨、説明があった。

4. 科研費採択について

清野編集委員長より、今年度、JBMM 発行費について申請していた日本学術振興会平成23年度科研費(学術定期刊行物)について、交付内定通知が届いた旨、報告があった。

なお、採択されてから、Issue 掲載までの日数が長い場合、審査に不利になるのではとの意見があり、1号あたりの掲載数を増やすことに伴う、超過ページ費用増加、およびIF値への分母数の増加などの影響を考慮しながら、検討することとした。

5. JBMM 論文賞選考について

清野編集委員長より、2011年5月9日時点の第26巻~28巻掲載論文における引用回数の上位一覧の提示があった。協議した結果、会員で上位にノミネートされた下記の論文を今年の受賞者としてはどうかとの提案があり、理事会へ推薦することとした。

「Nonenzymatic collagen cross-links induced by glycoxydation (pentosidine) predicts vertebral fractures」

第26巻1号、93~100頁 筆頭著者:白木 正孝

6. シュプリンガー・ジャパン(株)との出版契約について

清野編集委員長より、シュプリンガー・ジャパン(株)との出版契約書改訂(案)について提示があった。続いて事務局より、紙を薄くすることにより年間15万円の減額、ならびに発行部数を100部減らすことにより17万円の減額となった旨、説明があり、同改定(案)を了承した。

7. Associate Editor の追加について

清野編集委員長より、小児科の分野の投稿論文が増加してきていることから、Associate Editorとして田中弘之評議員(岡山済生会病院小児科)に参画いただきたい旨の提案があり、承認した。

8. その他

- ・清野編集委員長より、最近臨床の論文が増えており、特定の地域に限定した骨粗鬆症研究に関する論文が多く、2010年度のみで台湾、レバノン、中国、など合計24編の掲載があったことが報告され、今後、注意していくこととした。
- ・JBMM 査読回数の多い先生について(100回を超える担当等)、その貢献を表彰するため、第29回学術集會会場で、上位の先生の一覧をポスターとして掲示することや、休憩時間のコマーシャルスライドとして掲示してはどうかの提案があり、両案とも了承した。
- ・JBMM 査読担当者について、処理日数が長く、負担と思われる担当者については担当を解任することや、担当者が少ない分野については追加の検討することなど見直しを行ってはどうかの提案があり、次回委員会で資料をもとに協議することとした。また、担当回数の多い査読者については、Editorial Board に就任していただければどうかの提案があり、合わせ

て審議していくこととした。

<第3回ステロイド性骨粗鬆症管理と治療ガイドライン改訂委員会>

日時：2010年12月18日(土) 13時00分～15時00分

場所：千里ライフサイエンスセンター 5階 501号室

名和田委員長より、開会の挨拶があった。

議題：

1. 米国リウマチ学会の GIO 予防と治療のガイドラインと、GIO のPTH治療の紹介(15分)
鈴木副委員長より、GIOに対するPTH治療の有効性について、主に以下の報告があった。
 - ・The New England Journal of Medicine(2001年)に発表された Teriparatide とアレンドロネートの比較試験では21歳以上の骨密度のある患者を対象にしており、腰椎、大腿骨骨密度の増加は、PTH製剤(teriparatide)がアレンドロネートに比べて有意に優れていた。
 - ・2009年に行った36ヶ月までの延長試験でも骨密度に関しては上昇が続いたため、PTH製剤の優位性が見られる。
 - ・Bone(2010年)によると、骨代謝マーカーに関しても36ヶ月の骨折に対する有効性は、Teriparatideの方が、アレンドロネートに比べて優位であった。
 - ・Osteoporosis International(2009年)では、ステロイド投与量によって有効性が異なることから、Teriparatide とアレンドロネートの有効性の比較を閉経前女性・閉経後女性・男性に分けて検証した結果が掲載されており、アレンドロネートの有効性はステロイド投与量とは関係がないが、Teriparatide に関してはステロイド投与量の少ない方が、有効性が高いことが分かった。大腿骨ではそのような差は見られなかった。
2. わが国におけるステロイド骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン改訂の方向性(60分)
鈴木副委員長より、ガイドライン改訂の方法について説明があり、今後の方向性として主に以下の報告があった。
 - ・骨折リスクを4つの変数に分けて検証した。
 - ・ライフスタイル等、前回のガイドラインから変更された部分があり、Recommendation で8項目追加した。
 - ・閉経後女性と50歳以上の男性の対照群に関しては、Recommendation を設定していない。
 - ・薬物療法の推奨となる対照、閉経後女性と50歳以上の男性、脆弱性骨折の支障が無い場合は Recommendation を出していない。
 - ・薬物療法の推奨となる対照、閉経後女性と50歳以上の男性、脆弱性骨折の支障が無い場合は Recommendation を出して

いない。

- ・現行ガイドラインをより使いやすくすることが大切である。
 - ・2004年度版発行以降の5年間で、ACRのガイドラインが改定され、新規薬剤としてPTH製剤が承認された。一方国内では、ビスフォスフォネートとビタミンK2などの有効性についての新しいデータは現在のところ出ていない。
 - ・骨粗鬆症に関心のある医師により多く使用していただきたい。
 - ・現行ガイドラインで使用されているフローチャートと同様な形を継続するという理解であったが、2010年のACRのガイドラインを参考に改定の余地はある。
 - ・リスクの評価に関して、現在は脆弱性骨折、骨密度、ステロイド投与量の3段階評価だが、ACRのガイドラインでは「閉経」が大きな要因となっており、閉経の有無で薬剤の有効性が異なるため、「年齢」「閉経」といった要因も考慮に入れてはどうか。
 - ・原発性骨粗鬆症、ステロイド性骨粗鬆症、等、名称をどうするか確認してはどうか。
 - ・1次予防と2次予防について区別をするかどうか確認してはどうか。
 - ・前回の委員会で、骨密度とステロイド投与量について上位を逆転してはどうかとの意見があったため、確認してはどうか。
 - ・骨密度を測っていない人に対して、骨密度を測ってなくてもセロニンの摂取量を判断基準にするなどの何らかの基準を設けることも可能である。
 - ・一般的指導に関して、現行のガイドラインでは原発性骨粗鬆症の一般的指導に準ずるとしているが、継続してよいか確認してはどうか。
 - ・危険因子を点数化することで、骨粗鬆症になる可能性の高い患者を分析する手法もある。
3. ステロイド性骨粗鬆症治療におけるFRAXの検証
田中郁子委員より、ステロイド性骨粗鬆症治療におけるFRAXの検証結果について、主に以下の報告があった。
 - ・リウマチと膠原病患者105名を対象とし、FRAXの値と、2年間の実際の骨折を観察したところ、10年間で15.9%、2年間で約22%であった。また、2年間では、hip fractureは起こらなかった。
 - ・FRAXの値で、骨折の起きた患者と、起こらなかった患者の値を調べると、殆ど差が無いことがわかった。そのため、FRAXの値で将来の骨折を予測することは不可能であるという結論に至った。
 - ・FRAXは骨折に対して過小評価傾向にあり、将来の骨折を予測することは難しい。
 - ・FRAXの値は低い骨折した患者が2年間で10%程度発生

し、彼らはステロイドの投与量が多いという共通項があった。つまり、FRAX の値が低かったとしてもステロイドの投与量が多い人に関しては骨折のリスクは高くなる。したがって、FRAX はステロイドの使用の有無のみを問うが、ステロイド投与量も考慮に入れてはどうか。

4. 小児ステロイド骨粗鬆症の治療と管理のガイドライン(案) (15分)

田中委員より、小児ステロイド骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインについて主に以下の報告があった。

- ・問題は、小児のエビデンスが大幅に少ないことである。
- ・小児におけるステロイド性骨粗鬆症の2年間の観察結果について椎体骨折の危険因子を骨密度のCut off値で出す研究を行ったところ、骨折の基準値は-1.8となった。
- ・また、白血病の治療においてステロイド投与した場合に椎体骨折を起こした患者と起こらなかった患者の骨密度のデッドスコアの比較では、-2.1で骨折が起こり、-1.0では骨折が起こっていないため、やはり骨折の基準値は-1.8前後であると思われる。
- ・リウマチ性疾患については、骨折の有無に関わらず、別で考える必要がある。
- ・アレンドロネートとアルファカルシドールの2つの治療法による違いは考察できなかった。
- ・従来のフローチャートを踏襲する場合、BMDのYAM値の80%を小児期では-1.5SDに読み替えることにより、骨折リスクの高い症例はすべて含有できるのではないか。ただし、炎症性疾患、炎症性腸疾患、リウマチ性疾患(クローン病、若年性関節リウマチ等)の場合は、ステロイド投与に関わらず、骨折が発生することを、注意書き、または前提として記載する必要がある。
- ・ビスフォスフォネート製剤で骨密度を上げたとしても、成長障害は回復しないというデータがあることから、「ビスフォスフォネート製剤は成長障害を回復させない」という1文を別途記載する必要があるのではないか。

5. 委員長よりの提案

今後の改定の方向性として、委員長より以下の提案があり、了承した。

- ・専門家以外の一般の医師へより多く使用してもらうため、使いやすさ及びわかりやすさを重視する趣旨のもと、危険因子を抽出のうえスコア化し、総合的に骨折リスクを判別することの可能なガイドラインを作成する。
- ・田中郁子委員から発表のあったステロイド投与量のエビデンスも取り入れたい。
- ・本ガイドラインでは、日本人のエビデンスをもとに作成する。

(鈴木委員のGOJAS Study、田中良哉委員の一次予防)

- ・ガイドラインのスコア化作成の中心メンバーは、鈴木副委員長、宗園委員、田中(郁子)委員、藤原委員、中山委員とする。

<第6回椎体骨折評価委員会>

日時: 2011年5月14日 15時00分~17時00分

場所: 東京ステーションコンファレンス 4階 402B

報告事項

- 1) 第5回委員会議事録
- 2) 椎体骨折SQ法の検証データ分析を担当する東京大学生物統計学の上村夕香里先生が今回より委員として参加する。

【審議事項】

- 1) 椎体骨折SQ法の検証の実施について実施計画書をもとに詳細を決定した。
- ①使用するXPと計測ソフト: ATOP JOINT-02の60症例より40症例を選択し、脊椎側面XP(DICOM形式)のみを使用する。SQ法、QM法の計測にはImage Jを使用する。ソフトの使用法、計測手順をマニュアルにし、不明な点の問い合わせ先は森委員長とする。データセットの作成(担当: 森委員長)、Non Expertの選定が終わり次第、計測者にデータセットを配布する。日本骨代謝学会事務局がデータセットの配布、計測者からの結果の回収 データ管理を行う。
- ②計測者QM法(Expert): 伊東、中野、萩野、徳橋、加藤、戸川先生
SQ法: Expert + Non Expert (6学会に所属する内科医、整形外科医、脊椎外科医、放射線科医 30名) 5月中に Non Expertを選定する。
- ③計測: 配布されたデータセットとマニュアルに従って計測評価を行い、結果記載用紙に転記し、日本骨代謝学会事務局に送付する。SQ法評価は次回委員会(11月)までに終了する。SQ法測定が終了したら症例番号を付け直してExpertがQM法で計測する。
- ④データ分析、論文化: 上村先生が行う。
- 2) パブリックコメントの収集
中止となった日本整形外科学会と日本脊椎脊髄病学会のシンポジウムを来年度に企画することになった。
- 3) 椎体骨折に関する出版計画
寺崎さんより24項目150ページを単行本として出版する計画であることが報告され次回の委員会で分担項目について検討することになった。
- 4) 次回の委員会の日時
日本骨粗鬆症学会会期中(11月4, 5日)に開催する。日程を調整する(担当古賀さん)。

<原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会設立のお知らせ>

このたび、原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会が日本骨

代謝学会と日本骨粗鬆症学会の合同で設立されました。第1回委員会は、第29回日本骨代謝学会学術集会期間中の7月29日(金)に大阪国際会議場にて開催される予定です。

(原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員一覧)

委員長

福永 仁夫(川崎医科大学放射線医学教室(核医学))

委員

遠藤 直人(新潟大学大学院医歯学総合研究科機能再建医学講座整形外科学分野)

五來 逸雄(産育会堀病院産婦人科)

白木 正孝(成人病診療研究所白木医院)

杉本 利嗣(島根大学医学部内科学講座 内分泌代謝・血液腫瘍内科学)

宗圓 聰(近畿大学医学部奈良病院整形外科)

曾根 照喜(川崎医科大学放射線科(核医学))

萩野 浩(鳥取大学医学部保健学科)

藤原佐枝子(放射線影響研究所臨床研究部内科)

細井 孝之(国立長寿医療センター先端医療部)

オブザーバー

太田 博明(国際医療福祉大学山王メディカルセンター)

米田 俊之(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座生化学教室)

アドバイザー

友光 達志(川崎医療短期大学放射線技術科)

今後の学会予定

●第30回日本骨代謝学会

会期: 2012年7月19日(木)~21日(土)

会場: 京王プラザホテル東京

会長: 加藤 茂明(東京大学分子細胞生物学研究所核内情報学分野)

●IBMS JSBMR 2013 (第31回日本骨代謝学会)

会期: 2013年5月28日(火)~6月1日(土)

会場: 神戸国際会議場、ポートピアホテル

会長: 野田 政樹(東京医科歯科大学難治疾患研究所分子薬理学)

Japan Day 会長: 吉川 秀樹(大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学)

関連学会の大会開催予定

●8th Meeting of Bone Biology Forum

会期: 2011年8月19日13時(金)~20日15時(予定)(土)

会場: 富士教育研修所

(〒410-1105 静岡県裾野市下和田 656)

※東海道新幹線 三島駅下車 送迎バスにて40分
申し込み: <http://www.bone-biology.com/upcoming.html>
主催: 帝人ファーマ株式会社

●IOF Regionals 2nd Asia-Pacific Osteoporosis and Bone Meeting ANZBMS Annual Scientific Meeting WITH JSBMR

会期: 2011年9月4日(日)~9月8日(木)

会場: Gold Coast Convention Centre

大会HP: <http://www.anzbms-iof.org>

●第33回アメリカ骨代謝学会

The 33rd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research

会期: 2011年9月16日(金)~9月20日(火)

会場: San Diego Convention Center

(San Diego, CA)

大会HP: <http://www.asbmr.org/Meetings/AnnualMeeting.aspx>

●第14回癌と骨病変研究会

開催日: 平成23年11月18日(金)

開催場所: 千代田放送会館(東京都千代田区紀尾井町1-1)

参加費: 5000円

事務局: 株式会社グラフィティ内

〒107-0052 東京都港区赤坂2-20-2 ベル赤坂1階

TEL: 03-3583-1745 FAX: 03-3583-1741

●第5回 骨・軟骨フロンティア(BCF)

The 5th Meeting of Bone and Cartilage Frontier

会期: 2011年11月19日(土) 13:00~18:30(予定)

会場: ベルサール八重洲 2階RoomA, B, C(予定)

東京都中央区八重洲1-3-7

八重洲ファーストフィナンシャルビル3F

http://www.bellesalle.co.jp/bs_yaesu/

共催: 骨・軟骨フロンティア/旭化成ファーマ株式会社

●11th International Conference Cancer-Induced Bone Disease

会期: 2011年11月30日(水)~12月3日(土)

会場: Chicago, IL

大会HP:

<http://www.ibmsonline.org/Meetings/CIBD112011/tabid/260/default.aspx>

●第6回 Bone Research Seminar

会期: 2012年2月17日(金)~18日(土)

会場: 東京コンファレンスセンター 品川

(〒108-0075 東京都港区港南1-9-36 アレア品川)

参加費: 無料

主催: 中外製薬株式会社

大会HP: <http://www.conet-cap.jp/bresearch/index.html>